

3年 単元名「10年後の都井について話し合おう」(8時間)

1 単元設定の理由

本校は、「豊かな心をもち、気付き、考え、行動する、心身ともにたくましい生徒の育成」を教育目標とし、「海洋教育科」の学習内容を「持続可能な開発のための教育(E S D)」の視点で具体的な取組内容を構築することとし、単元開発及び実践を行ってきた。

本地域は、かつてトビウオ漁が盛んで地域経済を支えていたが、産卵床であるガラモ場の消失等によって漁獲量が激減し、冷蔵技術の普及などから漁師や地域を取り巻く産業構造も変化し、更に経済の高度成長、バブル、停滞期の波の中で地域の人々の生活も変化し過疎化・高齢化してきている。

また、本校の生徒は、海や山に囲まれ、自然豊かな環境の中で生活しながらも、地元の海や川、山で遊んだりする自然体験も少ない。海に関わる仕事に従事している保護者も少ない。このように、生徒にとっては地元の海が身近な存在ではない状況がある。

今回、生徒が初めて取り組む「海洋教育科」の推進にあたっては、指導の主軸を明確にし、まずは海への関心を高め、海と共に生きることへの理解を深化させる基礎知識や技能の修得を目指すこととした。そして、その上に立って実施する体験活動や探求活動には、脈絡と方向性を持たせ、生徒に地元の現状をしっかりと把握させ、生徒自らが地元とどのように関わりを持ち、諸課題に気づき、これからどうあるべきかを考え、行動する地域の一人としての自覚と自己存在感の醸成を目指す。さらに、この過程において「こども環境白書2016」(環境省・平成27年11月発行)で示されるE S Dの視点で捉える「持続可能な社会で大切なこと」とE S Dの視点で工夫する「問題解決に必要な能力・態度」を参考にし、課題を見つけ、その解決に向けて工夫する才の態度や能力の育成を行うこととした。

これまで生徒は、地域の海の生物、生態系、人々の暮らしの変化や現状について体験活動や探求活動を実践してきた。第3学年では、年度当初に設定した研究主題「都井の海と共に生きる、将来を見据えた生徒の育成」の最終段階として、「10年後の都井のあるべき姿」について、地域に住む様々な立場の人たちとの協議を通じて意見や考えの聞き取り、まとめの経験から、都井という地元を持続可能な開発のうえで大切なことを自分のこととして理解させ、本校の教育目標に迫りたいと考え本単元を設定した。

2 単元目標

- 地域の海の生態系や人々の暮らし・現状について正しく理解することができる。(知識・理解)
- 合理的、客観的な情報や公平な判断に基づいて本質を見抜き、ものごとを思慮深く、建設的、協調的、代替的に思考・判断することができる。(批判的に考える力)
- 人・もの・こと・社会・自然などのつながり・かかわり・ひろがり(システム)を理解し、それらを多面的、総合的に考えることができる。(多面的、総合的に考える力)
- 自分の気持ちや考えを伝えるとともに、他者の気持ちや考えを尊重し、積極的にコミュニケーションを図ることができる。(コミュニケーションを行う力と態度)

3 単元の評価基準

(1) 評価「B」の例

- ・ 地域の海の生態系や人々の暮らし・現状について大体理解することができる。(知識・理解)
- ・ 合理的、客観的な情報や公平な判断に基づいて本質を見抜き、建設的、協調的、代替的に思考・判断することができる。(批判的に考える力)
- ・ 人・もの・こと・社会・自然などのつながり・かかわり・ひろがり(システム)を大体理解し、

それらを多面的、総合的に考えることができる。 (多面的、総合的に考える力)

- ・ 自分の気持ちや考えを付箋紙に書いて伝えるとともに、他者の気持ちや考えを尊重し、コミュニケーションを図ることができる。 (コミュニケーションを行う力と態度)

(2) 観点別評価「A～C」を出したら、評定（5段階）を出す。以下の表を見て、観点別評価と評定に一貫性があるか確認する。

順番	観点別評価	評定
ア	A A A A	5 (4にするなら、観点を1つBにする)
イ	A A A B	5 (4もOK)
ウ	A A B B	4 (3もOK)
エ	A A A C	4 (3もOK)
オ	A A B C	4 (3もOK)
カ	A B B B	3 (4もOK)
キ	A B B C	3 (2もOK)
ク	B B B B	3
ケ	A A C C	3 (2もOK)
コ	B B B C	3 (2もOK)
サ	A B C C	2 (3もOK)
シ	B B C C	2 (3もOK)
ス	A C C C	2 (1もOK)
セ	B C C C	1 (2もOK)
ソ	C C C C	1

4 単元の指導計画

時	学習活動	指導上の留意点
1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 戦後の日本経済と人々の生活の移り変わりについて学ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 高度経済成長で地域の働き手が都市に行ってしまった。 ・ 地域は過疎化が進んで、地域経済も衰退してきた。 ○ 高度経済成長が都井に与えた影響について話し合い、全体で共有する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 高度経済成長で生活は豊かになったが、地方や農村では過疎化や高齢化が進んだ。 ・ 地方は労働者が減少して、漁業や農業が衰退している。 ・ 家電製品（三種の神器）で家事が楽になった。 ・ これから人口がさらに都市に集中し、様々な地域が捨てられ、故郷を失うことになるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ T1が10分程度の講話で生徒にディスカッションで必要な知識を身に付けさせる。 ※ 4人程度の班を編成し、テーマについて話し合う。 ※ 話し合いに教師(T2～n)も加わることで、共に学び、気づきを促す。 ※ 本単元の目標を意識させながら話し合いを行う。
1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 公害と生活排水がもたらす海洋汚染について学ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 高度経済成長期の環境破壊が公害を引き起こした。 ・ 都井には公害はなかったのではないか。 ・ 都井の川や海には生活排水が流れているから、自然に少しは影響を与えているのかもしれない。 ○ 高度経済成長期、都井の海において公害はなかったか話し合 	<ul style="list-style-type: none"> ※ T1が10分程度の講話で生徒にディスカッションで必要な知識を身に付けさせる。 ※ 4人程度の班を編成し、テーマについて話し合う。

	<p>い、全体で共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 四大公害のような大規模な公害が起きなかったのは、機械工場のようなものがなかったからだと思う。 ・ 洗剤などの生活排水を海に流してしまったから、40年前は海川が泡立っていたらしい。 ・ 海藻が減少して、漁獲量も減っている。 <p>○ 都井の海の汚染を防ぐために家庭でできることについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 油の再利用をする。海にゴミを捨てない。洗剤の使用を控える。お風呂のお湯で洗濯をする。 ・ 下水処理所を作ってもらおう。 	<p>※ 話し合いに教師（T₂～n）も加わることで、共に学び、気づきを促す。</p> <p>※ 本単元の目標を意識させながら話し合いを行う。</p>
1	<p>○ 循環型社会とカーボンニュートラルについて学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 21世紀以降から大量生産・大量消費の時代となった。 ・ ゴミの量が増えた。 ・ リサイクルは循環型社会の一つの形なんだ。 ・ 今は無駄となっているエネルギーが多いけど、カーボンニュートラルになればエネルギー効率がいいんだ。 <p>○ 都井で行われている、環境に配慮した活動はどんなものがあるか話し合い、全体で共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ プラスチックや牛乳パックなどの古紙のリサイクル ・ ゴミ分別の意識が高くないので、都井では環境活動はあまり行われていない。 ・ これまで環境保護活動などをしてきていない。 ・ 不要なものまで買ってしまって多くのゴミを排出している。 	<p>※ T₁が10分程度の講話で生徒にディスカッションで必要な知識を身に付けさせる。</p> <p>※ 4人程度の班を編成し、テーマについて話し合う。</p> <p>※ 話し合いに教師（T₂～n）も加わることで、共に学び、気づきを促す。</p> <p>※ 本単元の目標を意識させながら話し合いを行う。</p>
2	<p>○ 都井の現状について、知らないことはまだあるだろうか話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 串間市の上下水道がどれほど環境に配慮しているか。 ・ 人口の変化（移住者の数） ・ 海水温や海の生態系の変化 ・ 就業従事者の推移について <p>○ この10数年間で、都井から無くなったもの、変わらずあるもの、新しくできたものを話し合い、全体で共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 若者や観光客が減り、小学校が無くなった。 ・ 地域の祭りや病院等の生活に必要なものは変わらずある。 ・ ゴマフアザラシが地域の海に住み始めたり、コミュニティーバスが運行し始めた。 	<p>※ 4人程度の班を編成し、テーマについて各自が付箋紙に考えを書き、班員と共有する。</p> <p>※ 話し合いに教師（T₂～n）も加わることで、共に学び、気づきを促す。</p> <p>※ 本単元の目標を意識させながら話し合いを行う。</p>
3	<p>○ “Society 5.0”や生態系について講話を聞き、ワークショップについての予備知識を得るとともに、必要となるスキルを学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ これから聞く講話を「10年後の都井の姿を考えよう」という議題に関連させて、もっと知りたいことや聞きたいことは青い付箋紙に、気が付いたことやひらめいたことは黄色い付箋紙に書くんだ。 ・ これまでの人間の歴史において、人口が減少した時期が4回あったんだ。その時期が転換期にもなっていた。 ・ 捕れた魚の種類によって、その環境や生態系が大体把握できるんだ。 <p>○ 教師による「海洋教育科のふり返り」と、各学年による「海洋教育を通して私たちが学んだこと」の発表を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1年生は地域の海に対するイメージが変わった。 ・ 地域のくらしがいかに深く海と結びついているのかが分か 	<p>※ 地域住民（漁協、漁師、食生活改善委員、地域でエコツーリズムに関わる人、自然活動家、農業従事者、識者等）や大学教員、市教育委員会、他の学校の教員を一同にして議論を行う。</p> <p>※ 各班は5～6人で構成し、生徒と教師及び地域住民が混ざる。</p> <p>※ どの活動でも、疑問や意見は付箋紙に書く。</p>

<p>った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各班で「10年後の都井の姿を考えよう」について書いてきた付箋（意見や疑問）をまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 私の意見を模造紙に貼ってよいだろうか。 ・ どのように説明すれば、私の考えは伝わるだろう。 ・ 他に新しい疑問やアイデアはないか。 ○ 提言をまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 藻場の移植をしたらどうだろう。 ・ 漁業後継者が不足している問題はどのように解決できるだろうか。 ・ 観光と特産品を結びつければ、地域産業が活性化するのではないか。 ・ 禁漁期間を設けたり、養殖業を推進したりすれば、より持続可能になるのではないか。 ○ 各班が挙げた提言を投票で一つ選ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ どの提言が一番地域のためになるだろう。 	<p>※ 班で議論が滞る場合は、ポスターセッションで他の班の考えを学ばせる。</p>
<p>外部連携 / 教材等</p> <p>※ 1年時は「海を知る、親しむ」をテーマに、地域の海に住むゴマアザラシを通して海について考えたり、定置網体験やシーカヤックをしたりして、「豊かな海」とは何か、考えまとめた。ゴマアザラシの講話やシーカヤック体験は、宮崎大学の協力を得て行った。定置網体験では、地域の民間企業からの協力を得ることができた。</p> <p>※ 2年時は「地域との関わり」をテーマに、1学期はアカウミガメ講話や干潟についての講話、シーカヤック体験学習や地域の方とのミナ（磯に棲息する巻貝の総称）捕りなどを通して地域のくらしと自然とのつながり（先人の知恵等）を学んだ。2学期は、海洋教育科を主軸に他教科とのクロスカリキュラムの授業実践によって、横断的、接続的に学習を繋ぐことを通して学びの有用感を味わわせる指導を行った。</p> <p>※ 各単元は、(1) 知識注入、(2) 体験、(3) まとめを一サイクルとして構成した。</p>	